



熊本市震災対処実動訓練

報道等でご存じの方もいらっしゃると思いますが、昨日16日(日)は、熊本市震災対処実動訓練が行われました。これは、熊本地震の記憶や教訓の継承を図るとともに、地域防災力のさらなる強化を目的として、地域、施設管理者をはじめ、警察や自衛隊などの防災関係機関、協定団体等が連携した、全市的な訓練となりました。

災害の想定として、熊本地方を震源とする震度6弱(M6.5)の大規模な地震が発生(津波注意報発表)。市内では、多数の人的・住家被害が生じ、各所で停電・断水が発生。また、一時的な通信障害も発生するという状況です。

学校でも9時に地震発生の一報を受け、全職員に安否確認の連絡を安心メールで行いました。そして、熊本市の本校担当職員が集まり、備蓄倉庫や災害用トイレの確認を行いました。実は昨年度、防災用トイレのマンホールが校舎と体育館の間に5つできました。今回の震災の訓練でそのトイレを組み立て(右写真)、水源を確認しました。水源は、体育館の西側にあり、「貯水機能付給水管」という仕組みになっています。これは、地震等災害時に起こる断水時に備えて水を貯めておける水道管です。平常時は水道管として使用でき、断水時にきれいな水を簡単に取り出すことができる優れたものです。この給水管には、2リットルペットボトル約2000本の水を貯めておくことができるそうです。



今回の訓練を通して、いつやってくるかわからない災害に備えることの重要性を再認識することができました。



朝のボランティアで考えたこと

私は教育の最終目標を「人生を幸せに生きていくための力を身に付ける」ことだと考えています。もちろん、自分勝手な幸せではなく、「人の役に立つ」という自己有用感を基盤としながら、主体性を身に付け、自律しながら生きていくことが大切と考えます。それらを身に付けて、「なりたい自分になること」が人生の到達目標といえるでしょう。

自律や主体性は、正解が提示されない環境下に置かれることで、より一層育まれます。なぜなら、正解があると人は自分で考え、判断するというのをしなくなるからです。

朝から交通指導に立っていると、通学路を一人で箒をもって落ち葉を掃いている高学年の姿があります。そこには自分で考えて行動し主体性を発揮しながら自律的に活動している姿があり、「なりたい自分になろうとする姿」が垣間見え、子供の姿から教えられている私がいまいます。

